



草津東高等学校図書館
本derful!委員 発行
＜2020. 2. 10＞
2月号 学校ホームページ版

★最近入った本より★

内容	書名	著者名	請求記号
時事	森卓77言 超格差社会を生き抜くための経済の見方	森永卓郎	330.4-7
	データが読めると世界はこんなにおもしろい データブック オブ・ザ・ワールド入門	データブック入門編集委員会 編	350.9-7
	日本と世界の時事キーワード 2020-2021年版	時事問題リサーチ 編著	814.7-シ-2020
	＜図解＞まるわかり時事用語 2020→2021年版	ニュース・リテラシー研究所 編著	814.7-ニ-2020
学習参考書	必ず!報われる勉強法 頭の使い方もスポーツと同じ、「鍛錬」すれば上達する!	眞上久美	G-376.8-7
ブックガイド	このミステリーがすごい! 2020年版 2019年のミステリー&エンターテインメントベスト20	『このミステリーがすごい!』 編集部 編	901.3-9-2020
	このライトノベルがすごい! 2020 2010年代のベスト ランキングも発表!これが“すごい”ライトノベルだ!!	『このライトノベルがすごい!』 編集部 編	910.2-9-2020
小説	medium 霊媒探偵城塚翡翠	相沢沙呼	913.6-7
	ライオンのおやつ	小川糸	913.6-オ
	熱源 【直木賞受賞作】	川越宗一	913.6-カ
	夏物語	川上未映子	913.6-カ
	ムゲンのi 上、下	知念実希人	913.6-チ
	線は、僕を描く	砥上裕将	913.6-ト
	流浪の月	風良ゆう	913.6-フ
	店長がバカすぎて	早見和真	913.6-ハ
	背高泡立草 【芥川賞受賞作】	古川真人	913.6-フ
	ノースライト	横山秀夫	913.6-ヨ
	アナと雪の女王2	ウォルト・ディズニー・カンパニー 原作 しぶやまさこ 文	933.7-7
	ラストレター	岩井俊二	B-913.6-1
	絶対に働きたくないダンジョンマスターが情眼を むさぼるまで 12	鬼影スパナ	B-913.6-オ-12
	さよならの言い方なんて知らない。 3	河野裕	B-913.6-ヨ-3
	司波達也暗殺計画 3 魔法科高校の劣等生	佐島勤	B-913.6-サ-3
	スマホを落としただけなのに 戦慄するメガロポリス	志駕晃	B-913.6-シ
図書迷宮	十字静	B-913.6-ト	
ロクでなし魔術講師と禁忌教典(アカシックレコー ド)16	羊太郎	B-913.6-ヒ-16	
京都寺町三条のホームズ 13 麗しの上海楼	望月麻衣	B-913.6-モ-13	
コミック DAYS 36	安田剛士	M-726.1-4-36	

卒業イベント等に

お菓子作り、花束
&ラッピングの本
あります

図書館にはいろんな本がありますよ!
ぜひ参考に。図書委員が選んだおすすめ
本コーナーも見てね♪

『ちゃんまげぱいん』

荒木源：著
小学館（小学館文庫）

＜あらすじ＞

180年前の世界からやってきたという木島安兵衛がシングルマザーの遊佐ひろ子と出会い、ひろ子が安兵衛を家におくことになる。彼も恩義を感じて、家事の手伝いをする中で菓子作りに目覚める。その姿は完璧な主夫であった。

＜おすすめポイント＞

まず僕は本屋さんに行ったとき題名に惹かれて思わず買ってしまいました。そして、木島安兵衛のキャラがとてもいいです。江戸時代だからこそ男女の役割分担に信念はあるが、現代では少し態度を落ち着かせていることに好感が持てます。

本derful!委員のおすすめ本

『中途半端な密室』

東川篤哉：著
光文社（光文社文庫）

＜あらすじ＞

テニスコートで男性がナイフで刺されて死んでいるのが発見された。コートは内側から鍵が掛かり、周囲には高さ四メートルの金網が・・・（表題作）。『謎解きはディナーのあとで』の作者・東川篤哉のデビュー作を含む初期傑作五編。

＜おすすめポイント＞

本書は、五作からなる短編小説なのですが、どの作品も安楽椅子探偵形式で、ユーモアあふれています。その中でも私が特に好きなのは表題作「中途半端な密室」です。「不可能ではない、だが不可解」な犯行。ラストに明かされる衝撃の結末と、意外な犯人に思わず感銘を受けました。他四作も素晴らしい作品なのでぜひ読んでください。

『死にがい求めて 生きているの』

朝井リョウ：著
中央公論新社

＜あらすじ＞

植物状態のまま病院で眠る智也と、献身的に見守る雄介。その二人の人生の話を軸に、たくさん登場人物が現れ、最後に1つにまとまる話。

＜おすすめポイント＞

自分の価値についてなど、人にはなかなか言えない悩みを持っている人物がすごく上手く表せていた。登場人物の心の動きや行動なども、見ていると本当に共感できるし、自分の人生をこれからこう生きていこうという参考にもできると思った。

『容疑者Xの献身』

東野圭吾：著
文藝春秋（文春文庫）

＜あらすじ＞

2人で暮らしていた母と娘のところに夫が訪ねて来て、引っ越しても引っ越しても居場所をつきとめて暴力をふるっていた。夫に耐えられなくなった母と娘は夫を手にかけてしまい、そんな母と娘を天才数学者が助け、事件の捜査をくいとめていた。今度は刑事が天才物理学者に手助けをしてもらって事件を解決しようとする話。

＜おすすめポイント＞

それぞれの登場人物の行動や心理描写が描かれていて、とても感情移入できる。事件のトリックが最後までおもしろかったところ。罪を犯しても、許されてほしいと思わせる登場人物それぞれの思いなどいろいろな視点から楽しめる。主人公以外の登場人物にもたくさんの魅力があるところ。

「三日に一冊」、無理なら「1週間に一冊」読みましょう！！

中学校まではあまり読書とは縁がない生活であった。しかし高校入学後まもなく、授業の中で「三日に一冊読みなさい」とある教科の先生に勧められた。これをきっかけになぜか急に読み出すことになった。どのような心理変化が起きたのかは今では定かではないが、想像するには尊敬する先生であったからであろう。

さて、さすがに「三日に一冊」は無理だった。が、何とか「1週間に一冊」のペースでまずは日本の有名作家の小説から読みはじめた。図書館から文庫本を借りて森鴎外、夏目漱石、島崎藤村、志賀直哉、武者小路実篤、芥川龍之介、川端康成などなど。これらの作家の作品は確かに文体がしっかりした名文であり、いろいろな世界を経験することになった。乱読・多読であったが特に白樺派の武者小路実篤の作品を愛読した。

高2になると小説を中心とする文庫本の読書から、岩波新書などで評論など他のジャンルに読書の幅が広がった。また、海外の有名作家の小説も読むようになった。そうこうするうちに私の人生に大きな影響を与える事件(?)があった。それは比較的安い文庫本、新書本から、高校生としてはかなり高価な単行本を初めて買ったことである。その本が『日本人の意識構造』(会田雄次著 講談社)であった。なぜこの本を購入したのかは分からないが、この本は当時の私に大きなインパクトをもって迫ってきた。比較文化論で日本人と欧米人の行動様式の違いを論じていた。例えば、親子が山で熊に遭遇したとき、日本人の親は子供を両手で抱え込み、お尻を熊の方に向けて後ろ向きで子供を守ろうとする。一方、欧米人は子供を背中の中の後ろに回し、両手を大きくあげて前向きで熊の前に立ちほだかって子供を守ろうとする。このように行動様式が国によって大きく違うことを知ったことは私にとって大変新鮮であった。この本との出会いが、私の自己中心的な見方から多面的な見方へと方向転換させてくれた。これを機に文化論や人間論に興味をもつようになり関係の書物を読みあさった。『日本の風土と文化』(会田雄次著 角川選書)、『「甘え」の構造』(土居健郎著 弘文堂)、『タテ社会と人間関係』(中根千枝著 講談社現代新書) などなど。

さて、高3、大学となると1週間に一冊とはならなかったが実にいろいろな本を読んだ。そして現在に至るが若い頃に比べればずっと読む本は減った。昔ほど心に迫ってくるのが少なくなったからだろうか。しかし、若い頃の乱読・多読は多様な見方を教えてくれたから、自分を見つめ、進むべき道を決める際に大きく役立った。

最後に、私のお気に入りの作家を二人紹介する。知らない人も多いかもしれないが、是非読んでみてほしい。奇しくも二人の共通点はともに精神科医であるということである。

①なだいなだ

鋭い社会批評、ユーモラスな語り口のエッセーや優しい言葉で人間心理に関わる著作が特徴。『パンパのおくりもの』、『心の底をのぞいたら』、『権威と権力』、『片目の哲学』、『人間、この非人間的なもの』、『民族という名の宗教』、『TN 君の伝記』など多数。どの作品も平易な言葉で語りかけてくれるので分かりやすく心に深く沁みる。ペンネームは「何もなくて、何もない(無と無)」を意味するスペイン語 "nada y nada" からだという。

②糸木蓬生 (ははきぎほうせい)

文学部を出て、TBSに勤務。2年で退職し、その後医学部に入り直した。『閉鎖病棟』、『臓器農場』などの現代医学をテーマにした作品が多い。中身は命の尊厳をテーマとしたヒューマンドラマであり、医学の狂気と人間の心の底に潜む闇が描かれている。ミステリー仕立ての構成も大変巧妙。『白い夏の墓標』、『賞の柩』、『三たびの海峡』、『逃亡』、『水神』など多数。背景に綿密な取材と資料収集、命の尊厳と人への慈しみがあるからどの作品も心が揺さぶられる。ペンネームは源氏物語からとられている。

さあ、高校生の皆さん、「三日に一冊」、無理なら「1週間に一冊」読みましょう！！

♪読書マラソンおすすめ本♪ ①

本校図書館で開催していた「読書マラソン」より、優秀書評賞、優秀POP賞に輝いた本&おすすめコメントを紹介します。

*ほかの2作は3月号に掲載予定

<優秀書評賞>

『パラレルワールド・ラストストーリー』

東野圭吾/著

<おすすめ人：戯言遣いファン>

#記憶 #恋

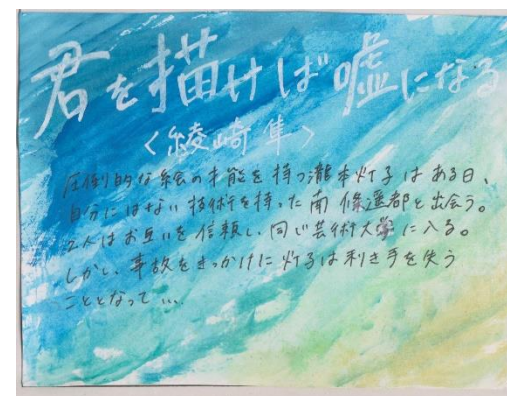
どんな本?

「親友の恋人を手に入れるために、俺はいたい何をしたのだろうか」本当の過去を知るために記憶と現実の差を探る主人公。親友はいたい何処へ行ったのか。謎が謎を呼ぶSFミステリー。

感想・コメント

この本自体は20年以上前に書かれた作品ですが2019年には映画化もされた作品です。科学チックな話も多く少し難しい部分もありますが、東野圭吾の小説らしく、とても読み進めやすかったです。

一周目も当然おもしろい本ですが、2周目では全く違う印象を受ける本で、すばらしい本だと思います。



<優秀POP賞>

『君を描けば嘘になる』

綾崎隼/著 角川書店

<おすすめ人：とまと>

紹介文

圧倒的な絵の才能を持つ瀧本灯子はある日、自分にはない技術を持った南條遥都と出会う。2人はお互いを信頼し、同じ芸術大学に入る。しかし、事故をきっかけに灯子は利き手を失うこととなって・・・

<優秀POP賞>

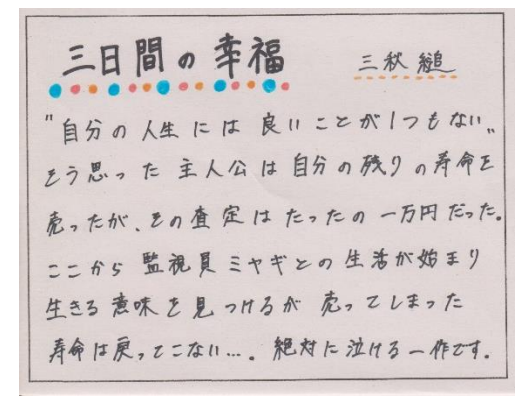
『三日間の幸福』

三秋 隼/著 角川書店

<おすすめ人：なすび>

紹介文

“自分の人生には良いことが1つもない” そう思った主人公は自分の残りの寿命を売ったが、その査定はたったの一万円だった。ここから監視員ミヤギとの生活が始まり生きる意味を見つけるか売ってしまった寿命は戻ってこない・・・。絶対に泣ける一作です。



*書評、POP作品は草津東高等学校の図書館にて展示中